中国地方法人会連合会　会長賞

税の役割

新見市立哲西中学校１年
加藤　　悠

ぼくは、夏休みに新見のじいちゃんばあちゃんの家に行くために電車に乗りました。そこで足元にある点字ブロックに気が付きました。新見に着いてばあちゃんに尋ねると、「目が不自由な人のためにみんなの税金であのブロックは作られているんよ。」と言われて、こんなふうにみんなの納めた税金が使われているんだと知りました。

ぼくは、今まで税金に対してあまり良いイメージがありませんでした。なんだかめんどくさいもの。余分に払って損をしているのではないか。特に消費税は、ぼくの父さんや母さんが小さかった二十数年前にはまだ無かったそうなのに、三パーセント、五パーセント、そして今は八パーセントにまでなっています。そして近々、また上がるかもしれないということを聞きました。今まで、消費税を払うのは当たり前のこととして考えてきていたけれど、それが無かった時代には良かっただろうな。なぜ、そんな税金ができたのか気になったので、ぼくは、調べてみました。すると、日本の少子化や高齢化の問題が大きく関わっていることが分かりました。ぼくの住んでいる新見市も、どんどん子供が少なくなり高齢化が進んでいます。市内の学校の多くは、統合したり、廃校になったりしています。その一方、高齢者が多くなり、老人ホームのような施設は順番待ちをしているそうです。身近に少子高齢化を強く感じていますが、これは、新見市だけの問題ではありません。現在の日本は、働いて税金を納める人より、老人ホームや年金などでお金が必要になる人の方が多くなっているのです。その負担を平等に偏らせないようにするために消費税ができたそうです。

また、それだけが理由ではなく、国の借金の問題もあると社会の授業で習いました。

税金とは、いろいろな立場の人に寄り添って、優しい住みやすい国、日本になるために必要なものです。ぼくも将来、その立場になった時には、日本の仲間の一人として納税しようと思います。ぼくたちの子供たちにも、住み良い日本であってほしいから、未来の日本のためにもこの制度を守っていかなくてはならないと思いました。